

R6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・課題研究	単位数	3	担当者	岩崎・植原・木下・押鐘・古畑・三澤・篠崎
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----------------------

1. 教科書・副教材

森林科学（実教出版）、環境科学基礎（実教出版）
 森林経営（実教出版）、林産加工（実教出版）、測量（実教出版）（サイエンスコース）
 グリーンライフ（実教出版）、生物活用（農文協）（ビジネスコース）

2. 科目の目標

森林や環境、地域に関する課題を生徒ごとに設定させ、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。さらに結果や考察についてプレゼンテーションする能力をつける。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	調査、研究、実験、資格の取得 作品制作についてのテーマの設定	森林や環境に関する生徒の興味・関心・進路希望に応じて、個人又はグループで適切な課題を設定させる。	5 3	中間報告（模造紙のまとめ）
	5月	年間計画	研究・製作等の詳細な年間計画の設定		
	6月	実施	研究の実施		
	7月	検討と調整・中間報告	文化祭での中間報告と再検討 （各グループとも模造紙 1 枚程度のまとめ、写真図表の活用）		
	8月	実施	作品製作や調査研究の継続		
	9月				
後期	10月	成果のまとめ・記録	結果のとりまとめと考察	5 2	報告書の作成 発表会 作品
	11月	報告書作成	報告書の作成		
	12月				
	1月	プレゼンテーション	発表会での発表と最終報告書の作成		
	2月	最終報告とまとめ			
	3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	専門分野をより深めることができたか	実技実習・レポート作成
思考・判断・表現	研究に計画的に取り組み、適切な行動がとれる。レポートやプレゼンテーション作成にあたり、正確な記録、判断、考察をまとめることができる。	レポート成果
主体的に学習に取り組む態度	研究テーマに主体的に取り組み、自己の将来につなげて、意欲的に課題に取り組むことができる。	実習態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

堅実なテーマの設定と確実な進行について常にチェックし、目的どおりの成果が挙げられるよう研究を進めていきます。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・総合実習	単位数	2	担当者	岩崎・押鐘・植原・篠崎
---	----	-------	---------	-----	---	-----	-------------

1. 教科書・副教材

森林科学（実教出版）

2. 科目の目標

専門分野の多彩な分野の知識技術を確実に体験的に習得する

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	キノコ種菌接種 伐木作業安全教育 農業鑑定学習	シイタケの種菌接種の実際を学ぶ 大径木および偏心木の伐木の方法 かかり木の処理	35	
	5月	丁張り実習	測量の実際と丁張りの実際についての実習 林道整備と丁張りの実際を学ぶ		
	6月	演習林実習	農業と森林管理の基本的な知識を習得する		
	7月	チェーンソーの使用の実際	チェーンソーの点検および整備 ソーチェーンの目立て		
	8月		森林の管理技術（主に間伐）を習得する		
後期	9月			35	
	10月	演習林実習	樹木の伐採、薪作りの技術の習得 間伐技術を実習を通じて習得する。		
	11月	林道の維持管理 キノコ原木栽培管理	バックホー操作の学習と林道整備を行う。 シイタケ原木栽培の実際について実習		
	12月	製炭実習 地域産業学習	炭窯による製炭作業技術を身に付ける。 地域農林業の実際について学ぶ。		
	1月	1年間の復習	座学を通じて実習のまとめを行い知識の 定着を図る。		
	2月				
3月					

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	農林業について、正しい知識や技術を身に着ける。	知識試験
思考・判断・表現	各学習や実習内容について深く理解し、適切な行動がとれる。 レポートやプレゼンテーション作成にあたり、正確な記録のもと明瞭にまとめることができる。	レポート作成 面接 上級検定
主体的に学習に取り組む態度	授業テーマに関心を持ち、自己の将来につなげて意欲的に課題に取り組むことができる	実習態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

生徒が自ら専門技術を身につけ、実際に応用できる力を身に着ける

R6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・農業と情報	単位数	2	担当者	古畑
---	----	-------	----------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

農業と情報（実教出版）

2. 科目の目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう学び、農業の振興や社会貢献に主体的に取り組む態度を養う。</p>
--

3. 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	私たちの生活と農業の情報化	35	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローン技術操作講習会【第1回】
	5月	情報とプログラミング		
	6月	情報社会とモラル		
	7月	情報社会の光と影		<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング技能検定【7月実施】
	8月	社会を支えるコンピュータ		
	9月	情報セキュリティ		
後期	10月	農業を支える情報	35	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローン技術操作講習会【第3回】
	11月	農業情報の分析と活用		
	12月	農業学習と情報活用		
	1月	農業情報の収集と分析		<ul style="list-style-type: none"> ・情報デザイン検定試験【12月実施】 ・ドローン技術操作講習会【第4回】
	2月	環境に関する情報の分析と活用		
	3月	スマート農業への展望		

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	情報をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技術を体系的・系統的に理解している。	定期考査、ワークシート
思考・判断・表現	農業情報の活用について思考を深め、科学的な根拠などに基づいて判断し過程や結果を適切に表現している。	ワークシート、提出物
主体的に学習に取り組む態度	農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	レポート、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを使うことで身につくことが多いです。操作が分かると、知識の理解も深まり思考・判断・表現の力も身につきます。 ・授業を欠席せず、実際の操作をすることが大切です。全員が確実にソフトウェアの利用ができるよう配慮し、検定の取得についても取り組みます。 ・個人所有のPCを活用します。授業には必ず持参してください。

R6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・森林科学	単位数	3	担当者	三澤・植原
---	----	-------	---------	-----	---	-----	-------

1, 教科書・副教材

森林科学（実教出版）

2, 科目の目標

森林環境維持の手段としての森林保護・治山について、その知識と技術について管理・施工できることを目的とする。

3, 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	森林保護	鳥獣害 病気 虫害 気象害 火災	5 3	森林保護
	5月	世界の森林被害	大気汚染・乾燥 伐採・酸性雨ほか		
	6月		世界の森林維持の動向 国土の維持と森林		
	7月	森林の維持活動			
	8月 9月				
後期	10月	治山の概要	侵食、山崩れ 地すべり、河川の動態・ 水の循環	5 2	治山
	11月	山地の荒廃			
	12月	溪流工事・山腹工事・地すべり工事	溪流工事 山腹工事		
	1月		地すべり工事		
	2月	砂防設計	砂防ダム設計		
3月					

4, 評価の方法・観点評価の方法・観点

	科目ごとの評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	森林保育を学ぶ意欲を持ち、森林環境保全に取り組んでいるか。育苗・保育・更新に関する知識を理解しているか。	ペーパーテスト（知識の習得、保全技術が正しくできるか）
思考・判断・表現	森林環境保全に価値観を持ち、考えることができているか。森林保全の方法の選択ができているか。	ペーパーテスト（習得した知識、技術と方法の正しい選択ができるか）
主体的に学習に取り組む態度	学校演習林の環境保全に取り組む意欲と判断力・行動力が身についたか。	演習林実習における判断力・行動力と内容観察。生徒による自己評価や相互評価、実習記録の記述内容。

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・森林のさまざまな事象に関心を持ってその仕組みを理解するように心がける。 ・覚えなければならない事柄は、きちんと覚える必要がある。
--

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・森林科学	単位数	2	担当者	木下
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

森林科学（実教出版）

2. 科目の目標

森林の保護に必要な知識を学習させ、森林破壊の現状を理解させる。また、森林に生息する動物やそれらの野生動物問題などを学習し、被害防除と利用、野生動物との共生を考察する。演習林実習や校外活動を通じて森林と親しみ、森林を総合的に利用する能力と態度を育てる。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	人間と森林	自然と人間の関係性について学習する	35	人間社会と森林 森林の保護 木曾の森林について 他
	5月	木曾の森林について	木曾の林業史について学習する		
	6月	クリエイションの機能	森林と親しむ体験を通じて、森林レクリエーションを学習する。		
	7月	レクリエーションの研究	森林レクリエーションの方法や資材を研究・考察について学習する。		
	8月	森林利用についてのまとめ	森林の多目的利用として作品を作る		
9月					
後 期	10月	近年の森林変化	森林はどのような気候を経験してきたのかを知り、現状について学習する	35	世界や日本で起きている 山地災害・気象災害・生物害・ 人為的被害など森林被害の 現状などについて
	11月				
	12月	世界で起きている森林破壊 日本で起きている森林被害	山地災害・気象災害・生物害・人為的被害など森林被害の現状を学習する。		
	1月				
	2月				
3月					

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	自然と人間の関係性や木曾林業史について関心を持ち山地災害・気象災害・生物害・人為的被害など森林被害の現状を理解するとともに、知識を身につけることができた。	定期考査、ワークシート
思考・判断・表現	森林の機能や野生動物・自然災害に関する問題・課題について考え解決する力を身につけることができる。	作品、提出物、ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	地域の林業から世界の林業について、基礎的な知識と技術が林業の分野で活用できるように自ら学び、生活に生かすことができるような態度を身につけている。	レポート、授業態度、実習態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

日本や地域の森林に着目し、樹木の特性や立地環境から森林の現状や課題について考えてみる。 作業着はきちんと着用する。
--

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・森林経営	単位数	3	担当者	三澤
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----

1, 教科書・副教材

森林経営（実教出版）

2, 科目の目標

森林経営の計画と管理に必要な知識と技術の習得をさせ、森林の機能及び森林の評価の必要性を理解させるとともに、森林を持続的に経営する能力と態度を育てる。

3, 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	森林政策と法規	5 3	森林政策と法規
	5月	森林の現状と経営		流域管理システム 森林関連法規
	6月			森林資源の状況 経営の現状と特質
	7月			
	8月	森林経営の計画		経営目標 森林施業計画 林況調査
後期	10月	リモートセンシングとGIS	5 2	森林の現状と経営 GIS 森林経営の実例
	11月			森林計画簿の作成
	12月 1月 2月 3月	森林経営の実例		GISの概要と実際 GISの利用 リモートセンシング
				日本の先進林業地の経営

4, 評価の方法・観点評価の方法・観点評価の方法・観点評価の方法・観点

	科目ごとの評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	森林生態の事物・事象に関心を持ち、森林の多面的機能を理解しようとするか。 森林の事物・事象に関する基本的な概念や理論・成立ちを理解し、知識を身につけているか。	ペーパーテスト（知識の習得、保全技術が正しくできるか）
思考・判断・表現	森林環境保全に価値観を持ち、考えることができているか。森林保全の方法の選択ができているか。	ペーパーテスト（習得した知識、技術と方法の正しい選択ができるか）
主体的に学習に取り組む態度	学校演習林の環境保全に取り組む意欲と判断力・行動力が身についたか。	演習林実習における判断力・行動力と内容観察。生徒による自己評価や相互評価、実習記録の記述内容。

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 森林のさまざまな事象に関心を持ってその仕組みを理解するように心がける。
- ・ 覚えなければならない事柄は、きちんと覚える必要がある。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・林産物利用	単位数	3	担当者	植原・押鐘
---	----	-------	----------	-----	---	-----	-------

1, 教科書・副教材

副教材 林産加工（実教出版）

2, 科目の目標

地域の森林や学校演習林を利用し、木材を製材・二次利用・利用などや山菜・きのこのなどの特用林産物を生産・加工する知識と技術を習得する。
--

3, 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲	
前期	4月	きのこの生産と加工	3 5	きのこの生産と加工・山菜の加工・木材の構造・木材の性質・木材の用途	
	5月	山菜の加工			きのこの生態や栽培方法などを学ぶ。 山菜の種類や特徴などを学ぶ。
		木材の構造			肉眼的な構造、顕微鏡的構造を理解する。
	6月	木材の性質			物理的・機械的・化学的性質を学ぶ。
	7月	木材の用途			木材の用途、特性を理解する。
	8月 9月				
後期	10月	製材	3 5	製材・木材の乾燥と保存・木材の工作・改良木材の製造・木材パルプと和紙 木炭・薬用植物の生産と加工・バイオマスの利用	
	11月	木材の乾燥と保存			のこぎりの構造、製材機械の構造を理解し実際に操作する。 木材の乾燥と保存を学ぶ。
		木材の工作			工作・塗装の方法を理解し、製材した木材を利用し製品を作る。
	12月	改良木材の製造			合板・集成材などを加工と利用を学ぶ。
		木材パルプと和紙			紙の製作・利用について学ぶ。
	1月	木炭・薬用植物の生産と加工			木炭や薬用植物の製作・利点・利用について学ぶ。
	2月	バイオマスの利用			バイオマスの変換技術・利用・課題などについて学ぶ。
3月	まとめ	年間の学習をまとめる			

4, 評価の方法・観点

	評価の観点	主な評価方法
知識・技能	木材の利用の意義を感じられたか。	定期テスト・実習等
思考・判断・表現	木材の特性と、安全な製材作業法を判断できるか。	定期テスト・実習等
主体的に学習に取り組む態度	安全かつ正確な作業ができるか。	定期テスト・実習等

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

安全第1に作業を行い、製材加工機器の正しい操作方法を学ぶ。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・測量	単位数	2	担当者	木下
---	----	-------	-------	-----	---	-----	----

1, 教科書・副教材

農業測量（実教出版）

2, 科目の目標

測量の基本である基準点測量の基礎と地形測量を中心にした細部測量、地図測量について学ぶ
--

3, 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲	
前 期	4月	測量とは	35	平板測量と誤差	
	5月	平板測量			測量を学ぶにあたって基本的なことを勉強する。
	6月				平板測量の方法 器具の説明
	7月				平板を用いた測量
	8月				閉合誤差と調整
	9月				
後 期	10月	水準測量	35	水準測量面、面積測量	
	11月	等高線 面積計算			水準測量の実際 基準となる点から水準測量を行い、水準測量の方法を身につける
	12月				野帳の記入の仕方、計算方法など身につける
	1月				面積計算と基礎を身につける (三斜法、三辺法)
	2月				
	3月				

4, 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	測量に関心を持ち、測量の知識を理解しているとともに技術を身につけている。	定期考査 提出物
思考・判断・表現	それぞれの分野について平面図や野帳を作成することができる。	ワークシート 平面図 野帳
主体的に学習に取り組む態度	平板測量や水準測量について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	実習態度 授業態度

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

測量に関する、基礎的な知識と技術の習得を目指す。 実習着をきちんと着用する。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・地域資源活用	単位数	2	担当者	岩崎
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

グリーンライフ（実教出版）

2. 科目の目標

木曽地域の魅力を再発見し地域の活性化や活用を考察する。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	人間生活とグリーンライフ	グリーンライフの潮流を理解する	35	
	5月	グリーンライフと交流・余暇活動	交流・余暇活動型経営の動向を知る		
	6月	農業・農村の魅力	地域性や豊かな文化を学ぶ		
	7月	自然環境と農業・農村の発見	身近な自然を発見・体験する		
	8月				
	9月				
後 期	10月	農村文化の発見と活用	農村文化とその特徴を理解する	35	
	11月	グリーンツーリズムの特徴とあゆみ	グリーンツーリズムのあゆみと展開を学ぶ		
	12月	グリーンツーリズムの企画立案と発表	ツアーの取材・計画・発表を行う		
	1月	直売所の企画・開設と運営	直売所の体験実習と企画作業を行う 成果の反省		
	2月	まとめ			
	3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	地域資源の活用方法について、正しい知識や技術を身に着ける。	知識試験
思考・判断・表現	各学習や実習内容について深く理解し、適切な行動がとれる。レポートやプレゼンテーション作成にあたり、正確な記録のもと明瞭にまとめることができる。	レポート成果
主体的に学習に取り組む態度	授業テーマに関心を持ち、自己の将来につなげて意欲的に課題に取り組むことができる。	実習態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

積極的な取り組みを期待します。 常に地域と環境・生活文化を意識した授業とする。
--

R6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・生物活用	単位数	3	担当者	古畑
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

教科書 生物活用（実教出版）	副教材：有機家庭菜園（家の光出版）
----------------	-------------------

2. 科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・植物や動物とのふれあい、世話をすることによる、生物の福祉的、あるいは療法的な活用の意義と役割を学ぶ。 ・「何らかの援助を必要とする人たち」を理解し、その人たちの生活の質を、植物を活用して向上させることを学ぶ。 ・コミュニケーションの重要性とそれを行う交流活動について理解する。 ・交流活動を行うために相互理解を深めるコミュニケーションスキルを理解し実践し共感する。
--

3. 学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲等
前期	4月	生物活用の意義と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・生物を活用するとはなにか ・生物活用の大切さ 	53	<ul style="list-style-type: none"> ・生物活用とは何か ・生物の療法的活用 ・園芸福祉・園芸療法
	5月	生物活用とプロジェクト学習	<ul style="list-style-type: none"> ・人間と植物・園芸との関係を理解する。 ・植物を扱うさいの留意点を理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生理的効用 ・心理的効用 ・身体的効用 ・社会的効用
	6月	植物・園芸・動物と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> ・植物・園芸・動物がもたらす効用 ・植物・園芸・動物の活用 		<ul style="list-style-type: none"> ・人間の健康への貢献 ・生物活用の効用
	7月	生物を活用した療法	<ul style="list-style-type: none"> ・生物を活用した療法とは ・植物を治療に活用する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・園芸活動がもたらすもの
	8月	園芸療法	<ul style="list-style-type: none"> ・世界や日本における園芸療法の実際 ・プログラムを考える 		
	9月	生物活用の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動の大切さ ・交流活動の心構え 		
後期	10月	交流活用の実施①	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動の目的を理解し、企画を立案する。 ・交流活動の実施の流れ 	52	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども園との交流
	11月	交流活動の実施②	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動のための資源調査 ・対象者の理解 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの理解 ・乳児期 ・幼児期 ・学童期・生徒期 ・青年期 ・成人期の理解
	12月	交流活動の実施③	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画の立案・実施 ・活動のまとめ 		<ul style="list-style-type: none"> ・PDCA サイクル ・5W1H
	1月	園芸作物の栽培と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの暮らしと園芸 		
	2月	室内園芸装飾	<ul style="list-style-type: none"> ・室内環境への効果 ・人への効果 		
	3月	地域緑化・都市緑化	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーとユニバーサルデザイン 		

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・生物的事物・事象に関心を持ち、意欲的に探究し、農業的態度を身につけたか。 ・生物的事物・事象を実証的・論理的にとらえ、総合的に考察し、事実に基づき農業的に判断することができるか。 	定期考査、ワークシート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・生物的事物・現象に関する観察の手法を習得するとともに、それらを農学的に探究する方法を身につけ、結果・考察を的確に表現することができるか。 	ワークシート、提出物
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・生物的事物・事象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。 	レポート、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動や校外学習に際しては、生徒が積極的・主体的に行動するよう促し、コミュニケーション能力を養う。 ・活動のまとめや報告を行い、表現力や問題解決能力を養う。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・食品流通	単位数	3	担当者	木下
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

食品流通（実教出版）

2. 科目の目標

・現代生活における流通の関わりや役割を理解する。

3. 学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	流通の始まりと発展	流通の成り立ちを知り、流通とは何かを理解する	53	流通について
	5月	流通の働き	生産と消費のへだたりについて理解する		
		食品流通の役割	食品流通に求められるものについて理解する。 経済発展と食料消費、世界の食料事情について理解する。		
	6月	経済活動と食料	流通経路の概要を知る		
	7月	食品流通のしくみ	規格外のものでも考え方によってはビジネスになることを体験し理解する。		
		規格外なものを栽培	フードシステムの仕組みを理解する		
8月 9月	私たちがとりまくフードシステム				
後期	10月	米の流通	米の食品特性と流通について学ぶ	52	主な食品の流通について
	11月	麦の流通	麦の食品特性と流通について学ぶ		
		畜産物の流通	畜産物の食品特性と流通について学ぶ		
	12月	食品の品質と安全性	食品の品質と安全性について学ぶ		
	1月	物流の仕組みと働き	物流とは何かを理解する		
	2月 3月	学習のまとめ			

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	食品流通の事物・事象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけることができる。	定期考査、ワークシート
思考・判断・表現	食品流通の事物・事象を実証的・論理的にとらえ、総合的に考察し、社会全体に占める流通の位置づけを判断することができる。	ワークシート、提出物
主体的に学習に取り組む態度	科目の学習内容に関心を持ち意欲的に授業に取り組める。 学習内容を適切にまとめ発表し表現する。	レポート、授業態度、実習態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

食品流通を様々な角度から学び、社会の仕組みに興味を持ってもらうことを期待します。
--

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・食品微生物	単位数	3	担当者	木下・篠崎
---	----	-------	----------	-----	---	-----	-------

1, 教科書・副教材

副教材 食品微生物 (実教出版)

2, 科目の目標

農業において、微生物がどのような働きと利用されているかを理解し、日本のそして地域の微生物利用技術を体験・習得する
--

3, 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	微生物の概要	53	微生物の概要と利用 きのこの栽培と加工 味噌について
	5月	菌類ときこの きのこの栽培と加工・利用 (椎茸の収穫 乾燥 パック詰め)		
	6月	味噌について 麴の製造と麴菌を観察する (麴屋さんの見学 味噌造りの実習)		
	7月	かび		
	8月	微生物には人間に有益なものだけでなく有害なものもあることを学ぶ		
後期	9月	食中毒について	52	食中毒について 抗菌実験について 微生物の種類 ・カビ ・酵母 ・細菌
	10月	微生物実験の基本		
	11月	乳酸菌の培養		
	12月	微生物について 微生物の活用		
	1月	すんきの製造		
	2月	6月に製造した味噌の確認		
3月	味噌の活用			

4, 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	微生物の基礎と利用、食品加工の技術を身につけるために、正しい知識を身につけることができた。	定期考査、ワークシート
思考・判断・表現	知識及び技術を活用して課題を解決するために必要な力を身につけている。	ワークシート、提出物
主体的に学習に取り組む態度	地域や農業について、班員と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを生かし食品加工の技術を身につけることができた。	レポート、授業態度、実習態度

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

ガラス器具等のけがの内容に注意されたい。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・農業土木施工	単位数	2	担当者	押鐘
---	----	-------	-----------	-----	---	-----	----

1, 教科書・副教材

農業土木施工（電機大）

2, 科目の目標

農業土木工事の特質を理解し各種工事を自然環境に配慮し合理的に施工・管理する能力を身につける。
 コンクリートの設計・施工について学習する
 JW_CAD を使い図面の作成を行う。

3, 学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	農業土木事業の役割	農地の整備と保全かんがい排水などの農業土木工事の概念を学ぶ	35	コンクリートの知識 コンクリートの性質 コンクリートの設計 コンクリートの施工
	5月	コンクリートの設計と施工	コンクリートの性質		
	6月	コンクリートの施工・実習	コンクリートの設計		
	7月				
	8月				
	9月		コンクリート施工実習		
後 期	10月	CAD の学習	JW_CAD の基礎を学習する 基本操作 図面の作成法	35	JW_CAD の知識 レイヤーの理解 JW CAD の操作
	11月				
	12月		JW_CAD で土木製図を行う		
	1月	CAD による製図	測量図面の製図（地形図、横断面図、縦断面図） 土木構造物の図面 正面図、側面図、		
	2月				
	3月				

4, 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	水理・土木についての基本知識を習得する CAD の知識を習得する	知識試験 レポート成果 実習態度
思考・判断・表現	設計の基本的捉え方ができる	
主体的に学習に取り組む態度	土木設計の一部ができる CAD で製図できる	

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

知識と実習をつなげ実践力を身につける

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・ウッドクラフト	単位数	2	担当者	押鐘
---	----	-------	------------	-----	---	-----	----

1, 教科書・副教材

なし

2, 科目の目標

間伐材やその他森林資源を利用した製品の製作

3, 学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲	
前期	4月	施設・用具の使用方法	35		
	5月	木材の基礎知識			
	6月	木工品の制作①			
	7月	素材の採集			
	8月				
	9月				
後期	10月	木工品の制作②	35		
	11月	木工品の制作③			
	12月				まとめ
	1月				
	2月				
	3月				

4, 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	木材の性質について、正しい知識や技術を身に着ける。	知識試験
思考・判断・表現	作品の制作について、設計から加工の過程を管理できているか・道具の使用方法が身についているか。	レポート成果
主体的に学習に取り組む態度	授業テーマに関心を持ち、知識を身に付け、積極的に制作に取り組んでいるか。	実習態度

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

機材の使用方法や安全教育を徹底し、安全に留意して実習を行う。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	農業・農業簿記	単位数	2	担当者	岩崎
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

高校簿記新訂版（実教出版）

2. 科目の目標

簿記の仕組みや役割を理解し集計決算作業が出来るようになる

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	損益計算表と貸借対照表	二表を作成できる	35	諸表とその転記
		取引と勘定記入			
	5月	試算表、精算表	各種精算表を作成できる		
	6月	決算と財務諸表の作成			
	7月	商品売買	有高の諸表を作成できる		
	8月	売掛金、買掛金、債務・債権 有価証券	債権の意味が分かる 有価証券換算表を作れる		
	9月	手形（1）	各種手形の仕分け・記帳が出来る		
後期	10月	手形（2） （貸倒損失と貸倒引当金）	（引当金の意味が分かる）	35	有高帳の記載と引当金等 精算表と年間のまとめ
	11月	固定資産と減価償却	減価償却費を仕訳し、記帳できる		
		費用・収益の繰り延べ （費用・収益の見越し）	費用・収益の繰延勘定が出来る		
	12月	資本金・引出金・税金 諸表の作成	資本金と税金での表を記載できる 各諸表を作成できる		
	1月	試算表、精算表作成	3級レベルの検定の内容が分かる		
	2月	まとめ			
	3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	正確に仕訳と諸帳簿の記入ができる	知識試験
思考・判断・表現	各諸帳簿の記入から資産や経営状態が把握できる	レポート成果
主体的に学習に取り組む態度	簿記知識や資格取得に関心を持ち、自己の将来につなげて意欲的に課題に取り組むことができる	実習態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

全経簿記3級資格取得を目指す 創業知識を身に着ける
